

中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価方法書 【長野県】に対し大鹿村の意見を提出しました

9月27日にJR東海が公表した環境影響評価方法書は、リニア中央新幹線事業の環境影響調査に入る前に、環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法等、環境アセスメントの方法が記載されたものです。この方法書に対し改正環境影響評価法の趣旨により関係地域で説明会が開催され、10月18日に大鹿村で説明会が開催されました。

この説明会で参加者から、自然や生活環境に大きな影響が心配される残土処理ダンプカーの通行や工事期間の質問、トンネル坑口などリニア施設の計画位置などの質問、環境影響調査段階での住民との意見交換の要望、水環境や温泉に対する十分な調査の要望など多くの意見が出されました。これらの意見に対しJR東海は、環境影響調査を行った上で準備書で具体的に示すとの回答でした。

大鹿村では、説明会で出された意見などを基に、11月9日に環境影響評価方法書に対し、環境保全の見地から以下のとおり4つの意見をJR東海に提出しました。

- ・項目：地下水・水資源
- ・意見

地下水・水環境調査においては、文献、資料の収集・整理により現地調査項目を設定することとしているが、山間地の多くの民家は村営水道以外に自家用水源を有しており、農業用水などの水資源や温泉の源泉位置等についても文献・資料に記載されていないものが多く、方法書では把握されていない。

このため、現地調査項目の設定にあたっては事前に地元自治体や住民、地元専門家などからヒアリング調査を行い、環境影響調査を実施すること。特に南アルプスから中央構造線にかけては複数の断層により複雑に地層が入り組んでいるため、地形・地質面からも適正な調査・検討を行い、水環境への影響を回避すること。また、温泉については工事前と工事後複数年の影響調査を公開で実施すること。

- ・項目：廃棄物等
- ・意見

本計画はほとんどがトンネル工事のため膨大な量の掘削土砂が発生し、工事期間も2014年から2027年と長期となるため、残土処理による自然

環境や生活環境への影響について早期の情報開示を求める意見が多い。

建設主体としてこの意見を真摯に受け止め、環境影響調査により建設発生土等の処理方法を概ね予測できる段階で、概略の残土処理計画を地元自治体に示し、自然及び生活環境への影響回避又は低減に向けて地域と連携して取り組むこと。

- ・項目：事業計画

- ・意見

小渋川を明かりで通過することについては、南アルプス山麓の貴重な自然環境の中にあることに加え、地形的に大変厳しく、地質も脆弱な地域であることから、坑口周辺の防災対策の大規模化、施設の存在による周辺景観や環境への影響が大きいため、小渋川はトンネルで通過するよう改めて要望する。

なお、明かりで通過する必要がある場合には、その理由を準備書において分かりやすく説明すること。また、坑口の防災対策と自然環境への影響の低減方法を具体的に示すこと。

- ・項目：環境全般

- ・意見

環境影響調査にあたっては、地域の文献により詳細に調査を行うとともに、現地調査項目の設定は事前に地元自治体や住民、地元専門家などからヒアリング調査を行い、現地調査を実施すること。

また、準備書作成段階における影響評価の過程において、地元自治体と協議する機会を設けるなど、自然及び生活環境への影響の回避又は低減に向けて地域と連携して取り組むこと。